

2021年3学期終業式式辞

「文系の価値」

2021年3月23日

兵庫県立三木北高等学校 校長 吉田尚美

今日で3学期が終わります。4月から新2年生は文系理系に分かれ、新3年生は文系理系だけでなくもっと細分化した進路選択をして、それぞれ進学や就職に向かって進んでいきます。

文部科学省は2015年6月8日付けで「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」という通知を各大学に送りました。そこには、大学に求められる社会的役割として、世界における日本の競争力強化や科学技術の革新、グローバル人材の育成などを指摘し、人文社会学系と教員養成系の学部、大学院については「組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう」求めています。つまり、政府は、文系学部の縮小を促しているのです。

では、文系の学問（国語や社会等）は、価値がないのでしょうか。文系の学問の価値とはなんでしょう。理系なら、例えばワクチンの開発、電気自動車の開発、宇宙船の開発など、生活に役立つ価値を作り出すことはわかります。でも、文系の学問で、古文や漢文、小説、哲学、歴史などを学んで役に立つのか、何の価値があるのかと思うかもしれません。

文系が役に立たず価値がないように見えるのは、文系は、今ここに存在しない新しい価値を創り出す学問だから、今の価値観では役に立たないように見えるのです。

例えば「人権」は現代社会の基礎となる普遍的な権利です。人は生まれながらにして平等であり、人権は大切だとみんな思っています。けれども、昔はそうではなかった。生まれながらに身分によって差別され、人権という概念はありませんでした。「人権」という新しい価値観を創り出したのは、文系の学問です。社会はどうあるべきか、人はどう生きるべきかについて考え、新しい価値を作り出すのが文系です。民主主義という考え方、資本主義、社会主義、共産主義など社会を動かす基本的な概念を創り出したのは文系の学問です。

フランス革命に大きな影響を与えたのはルソーの「社会契約論」という1冊の本でしたが、社会だけでなく、個人の考え方、生き方に大きな影響を与えるのも文系です。みなさんは、本や漫画、ドラマや映画を見て価値観が変わったり、生き方が変わったりしたことはありませんか。例えば鬼滅の刃を読んだ人は、煉獄杏寿郎のお母さんの言葉「生まれついて 人よりも多くの才に恵まれた者はその力を世のため人のために使わなければなりません。天から賜りし力で人を傷つけること、私腹を肥やすことは許されません。弱き人を助けることは強く生まれた者の責務です。責任を持って果たさなければならない使命なのです。」に感動して人生が変わった人がいるかもしれません。

みなさんの中には韓国のドラマをみたり BTS の歌を聞いたりして韓国に憧れを持っている人も多いですが、2003年「冬のソナタ」というドラマがヒットするまでは、多くの日

本人は韓国を下に見ていました。しかし「冬のソナタ」が韓国に対する印象を180度変えたのです。韓国は一気に憧れの国になりました。このように新しい概念や価値を作り、社会に伝え、より良い世界を作っていくもの、それが文系の学問です。

皆さんの目の前に広い土地があったとします。その土地を誰かの所有物と見るか、土地はそもそも誰のものでもなかったのだから、人が生まれて、その土地を使って生活して、死んだら誰のものでもない土地に還ると考えるかで、国の制度が根底から変わります。

同じものを見ていても、どう考えるかで社会は大きく変わる。文系の学問というのは、物の見方や捉え方を変えたり、新しい考え方を創り出したりして、新しい価値を作る学問です。

そして、新しい価値を創るためには、たくさんの本を読み、様々な考え方に触れ、様々な体験を重ねなければなりません。人の考えをなぞっているだけではだめです。自分の頭で深く考え、物事の新しい切り口を探し出してください。より良い社会、誰もが生きやすい社会を作るための新しい価値を作り出してください。それをイノベーションと言います。

文系は人の人生を、そして社会を変えることのできる非常に価値のある学問です。文系に価値がないなどというのは、現在の価値観のままの方が、都合が良くて、新しい価値観を創り出したくない人の言うことです。理系を選んだ人も文系を選んだ人も、新しい価値を創り出せるよう努力してください。